

未来の里山について考える「里山工学ゼミナール2025」(全8回) 1/28は「里山研究フィールドにおける活動成果」をテーマに開催

1月28日(水) 17時より、「里山工学ゼミナール2025」(全8回)の第8回目を開催します。

最終回となる今回のテーマは「里山研究フィールドにおける活動成果」。本学の修士課程で開講している「里山工学」では、香美市土佐山田町佐岡地区に設けた「里山研究フィールド」において、学生たちが里山の再生・維持・活用に関するテーマを設定し、それぞれの専門分野を活かしながら取り組んでいます。今年度、結成されたのは、「農地班」「防災班」「階段班」「発電班」の4つのグループです。今回のゼミナールでは、その活動成果を報告します。

① 農地班「耕作放棄地における休憩施設の設計と施工」

耕作放棄地で活動する際、熱中症の対策にもつながる休憩場所の確保が必要となっていたことから、休憩施設の設計と施工を行いました。放置竹林の竹材を利用し、ドーム型の休憩施設を設置するとともに、暗渠も敷設して農地環境の整備も行いました。



② 防災班「倒壊家屋の瓦礫処理と避難経路の確保」

老朽化した納屋が2024年6月に倒壊しました。瓦礫が金峯神社への山道を塞いだため、道路啓開を行うべく、瓦礫処理の計画と実施を行いました。また災害時に研究フィールドから避難する際のルートを確認するため、里道を探索していくつかのルートを選定し、その評価を行いました。



③ 階段班「木灰コンクリートを用いた山道における階段の改修」

2020年に設置した金峯神社への階段のステップに用いていた木が腐朽したため、測量によって雨水の流れを解析するとともに劣化状況と比較を行いました。改修において、ステップの耐久性を高めるため、竹を型枠として作成した竹筋木灰コンクリートを提案。竹の型枠は外さずに、そのまま現地に設置することとしています。



④ 発電班「生物多様性に配慮したマイクロ水力発電のための水源確保」

災害時における電力確保のため、マイクロ水力発電の設置に向けた水理システムの構築を目的としました。まず希少な水生昆虫が生息している既存の貯水槽の生物環境を維持しながら、水を発電に利用する手法を立案。渇水期でも水が供給できるように谷に堰を作って取水する施設を設置しました。



「里山工学ゼミナール2025」(第8回「里山研究フィールドにおける活動成果」)

- 日 時 : 2026年1月28日(水) 17:00~18:30
- 会 場 : kuzume Base. (香美市土佐山田町楠目972-1)
- 申 込 : 不要(会場へ直接お越しください)
- 参加費 : 無料
- 駐車場 : 香美市市民グラウンド駐車場
※南側の一列にお駐めください【会場まで徒歩3分程度】
- 主 催 : 高知工科大学 国土情報処理工学研究室



取材をご希望の場合は、
1月27日(火)の17:00までに 広報課までご連絡ください

【本リリースに関するお問い合わせ】
高知工科大学 広報課 渡瀬・澤田
TEL.0887-53-1080
E-mail : kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp